

令和2年 壱岐市議会定例会 9月議会 議録(第2日)

議事日程(第2号)

令和2年9月14日 午前10時00分開議

日程第1	報告第9号	令和元年度壱岐空港ターミナルビル株式会社に係る経営状況の報告について	質疑なし、報告済
日程第2	報告第10号	令和元年度株式会社壱岐カントリー倶楽部に係る経営状況の報告について	質疑なし、報告済
日程第3	報告第11号	令和元年度IKI PARK MANAGEMENT株式会社に係る経営状況の報告について	質疑あり、報告済
日程第4	報告第12号	令和元年度公益財団法人壱岐栽培漁業振興公社に係る経営状況の報告について	質疑なし、報告済
日程第5	報告第13号	令和元年度一般財団法人壱岐市開発公社に係る経営状況の報告について	質疑なし、報告済
日程第6	報告第14号	令和元年度一般社団法人壱岐市ふるさと商社に係る経営状況の報告について	質疑なし、報告済
日程第7	報告第15号	令和元年度壱岐市財政健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	質疑なし、報告済
日程第8	報告第16号	令和2年度壱岐市一般会計補正予算(第6号)の専決処分の報告について	質疑なし、報告済
日程第9	議案第51号	壱岐市ケーブルテレビ施設通信機器更新工事請負契約の締結について	質疑なし、産業建設常任委員会付託
日程第10	議案第53号	壱岐市税条例の一部改正について	質疑なし、総務文教厚生常任委員会付託
日程第11	議案第54号	原の辻一支国王都復元公園条例の一部改正について	質疑なし、総務文教厚生常任委員会付託
日程第12	議案第55号	令和2年度壱岐市一般会計補正予算(第7号)	質疑なし、予算特別委員会付託
日程第13	議案第56号	令和2年度壱岐市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	質疑なし、総務文教厚生常任委員会付託
日程第14	議案第57号	令和2年度壱岐市後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)	質疑なし、総務文教厚生常任委員会付託
日程第15	議案第58号	令和2年度壱岐市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)	質疑なし、総務文教厚生常任委員会付託
日程第16	議案第59号	令和2年度壱岐市下水道事業特別会計補正予算(第1号)	質疑なし、産業建設常任委員会付託
日程第17	議案第60号	令和2年度壱岐市農業機械銀行特別会計補正予算(第1号)	質疑なし、産業建設常任委員会付託

日程第18	認定第1号	令和元年度壱岐市一般会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 決算特別委員会付託
日程第19	認定第2号	令和元年度壱岐市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第20	認定第3号	令和元年度壱岐市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第21	認定第4号	令和元年度壱岐市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第22	認定第5号	令和元年度壱岐市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 産業建設常任委員会付託
日程第23	認定第6号	令和元年度壱岐市三島航路事業特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 総務文教厚生常任委員会付託
日程第24	認定第7号	令和元年度壱岐市農業機械銀行特別会計歳入歳出決算認定について	質疑なし、 産業建設常任委員会付託
日程第25	認定第8号	令和元年度壱岐市水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	質疑なし、 産業建設常任委員会付託
日程第26	要請第1号	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書の提出について	総務文教厚生常任委員会付託
日程第27	要望第1号	市歌【壱岐・洋々】を電話の保留音で対応することを要望	産業建設常任委員会付託

本日の会議に付した事件

(議事日程第2号に同じ)

出席議員 (16名)

1番 中原 正博君	2番 山川 忠久君
3番 山内 豊君	4番 植村 圭司君
5番 清水 修君	6番 土谷 勇二君
7番 久保田恒憲君	8番 音嶋 正吾君
9番 小金丸益明君	10番 町田 正一君
11番 鵜瀬 和博君	12番 中田 恭一君
13番 市山 繁君	14番 牧永 護君
15番 赤木 貴尚君	16番 豊坂 敏文君

欠席議員 (なし)

欠 員 (なし)

事務局出席職員職氏名

事務局長 吉井 弘二君 事務局次長 村田 靖君
事務局係長 折田 浩章君

説明のため出席した者の職氏名

市長 …………… 白川 博一君 副市長 …………… 眞鍋 陽晃君
教育長 …………… 久保田良和君 総務部長 …………… 久間 博喜君
企画振興部長 …………… 本田 政明君 市民部長 …………… 石尾 正彦君
保健環境部長 …………… 崎川 敏春君 建設部長 …………… 増田 誠君
農林水産部長 …………… 谷口 実君 教育次長 …………… 西原 辰也君
消防本部消防長 …………… 山川 康君 総務課長 …………… 中上 良二君
財政課長 …………… 松尾 勝則君 会計管理者 …………… 松本 俊幸君
監査委員 …………… 吉田 泰夫君

午前10時00分開議

○議長（豊坂 敏文君） 皆さん、おはようございます。

会議に入る前にあらかじめ御報告いたします。壱岐新聞社ほか1名の方から、報道取材のため撮影機材等の使用の申出があり、許可をいたしております。

ただいまの出席議員は16名であり、定足数に達しております。

これより本日の会議を開きます。

日程第1. 報告第9号～日程第8. 報告第16号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第1、報告第9号から、日程第8、報告第16号までの8件を議題とします。これから一括して質疑を行います。

報告第11号について質疑の通告がっておりますので、これを許します。7番、久保田恒憲議員。

○議員（7番 久保田恒憲君） おはようございます。それでは、通告をしておりますので、その通告に従いまして質問をさせていただきます。

報告第11号令和元年度IKI PARK MANAGEMENT株式会社に係る経営状況の報告についてということで、3点ほど質問をさせていただいております。

その、まず1点目が、1ページに表示されてあります「国内外から多くの人を呼び込む観光集

客拠点として、魅力向上と経営の健全化を目指し、事業推進をしてきた」と。その中で、入園者数が令和元年度、島外でいえば2万1,003人。じゃあ、その中で外国人入園者数は何人だったのでしょうかという1点目の質問です。これは、やはり国内外からということで、国内外であれば、当然、外国の人たちのその入園者数も把握しているのではないかと思って、質問しております。

2点目、5ページの中で、役員報酬1,140万円とありますが、この役員の数が何名なのか。この役員の方は報酬以外に、例えば、手当等があるのか、ないのかをお尋ねいたします。

3点目、追い込み漁で捕獲したイルカの飼養禁止など、イルカの確保は今後ますます困難が予想されます。じゃあ、繁殖ってということで、繁殖も難しいというふうに聞いておりますので。繁殖も難しい現状において、壱岐市がこの指定管理者に求める運営形態というものはどういうふうにご考えられているのかを、この3点をお尋ねをいたします。

○議長（豊坂 敏文君） ただいまの質疑に対する理事者の答弁を求めます。本田企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） 久保田議員の御質問にお答えをいたします。

まず1点目の、外国人入園者数についてでございますが、島内外の計測はしておりませんが、外国人を個別には把握をしておりません。イルカパークの聞き取り状況からしますと、約150名から200名程度は入っているんじゃないかということでもございました。

次に、2点目の、役員報酬についてでございます。

役員数は2名でありまして、報酬以外の手当等はございません。

次に、3点目の、イルカの確保や指定管理者に求める運営形態についてでございます。

議員御質問のとおりイルカの確保につきましては、国内全ての水族館が抱えている問題でございます。自然界からの捕獲をやめる国際的な方針ですので、残される解決策は繁殖となると考えております。このことから、イルカパークも繁殖を目指しているところでございます。

国内の繁殖成功率は30%、海外では70%以上と言われております。このため、海外でも先進的な施設であるアメリカ、フロリダ州にあるドルフィン・リサーチ・センターと、施設としては世界で初めて業務提携し、飼育管理、医療、繁殖等の技術指導を受けております。

新規に導入したイルカも性成熟した個体を導入し、個体の環境適応能力と今後の繁殖を見据えたものでございます。繁殖に関する施設面では、冬の海水温対策や体調不良時の治療用のためのプールが最低限必要かと考えております。

指定管理者におきましては、イルカを取り巻く情勢も含め、持続可能な経営のために、飼育管理技術の向上や繁殖の実現へ積極的に動き、一歩ずつではございますが、着実に取り組んでいただいております。

壱岐市といたしましても、重要な観光拠点でございますので、持続可能な運営ができるよう、

頭数確保に向け、サポートしていきたいと考えております。

○議長（豊坂 敏文君） 久保田議員。

○議員（7番 久保田恒憲君） まず1点目の、外国人の入園者数。やはり、これはちゃんとカウントしていった方がいいじゃないかと思います。そんな難しいことじゃないかもしれませんし。例えば、入園者の人にアンケートを取るとか、今いろんな場所でそういうことはされていると思いますので。特に、外国の人、国内外って言うのであれば、そういうカウントはぜひ取っていただきたいと。これは要望です。

2点目は分かりました。

3点目、今の回答の中で、アメリカのフロリダ州の飼育に関しては先進的なところと業務提携って言われましたよね。じゃあ、業務提携には費用はかかりませんか。その費用がかかるのかどうかと。

遠い外国との業務提携で、本当にその飼育に関してのノウハウを得て、スムーズに飼育成功に向けて事が進むのかっていうのがちょっと疑問なんです。といいますのは、私もこの質問をするに際しては、現在の国内の状況はどうなのかなあとと思って、ネットで調べられる範囲で、簡単に調べてみました。

1点目が、2017年に開かれた、「イルカショーの可能性と未来」という京都大学野生動物研究センターが主催した勉強会とかシンポジウムっていうのかですね。

この中には、多くの水族館、イルカを飼育されている関係団体が参加されまして、その話合いの中で、例えば、水族館でどうイルカを見せるかとか、イルカと人の新たな関係はどうするかとか、水族館とイルカを対象とした行動学研究とか、こういうことが話合いをされています。その発表が、そのテーマに沿って合計で12施設、団体の発表がされております。その後、「イルカの飼育とショーのこれから」という討論会も開かれているようです。

一々、中身を私は見るまでに至りませんでした。例えば、この中に発表されているその団体、施設を見ますと、やっぱりそうそうたるメンバーなんです。須磨海浜水族園、近くでいえば、佐世保パールシー、沖縄美ら島財団、名古屋港水族館、かごしま水族館、あるいは京都女子大学、三重大学大学院生物資源学部、京都大学霊長類研究所とかいろんな団体が12団体、発表をされております。これが第1点。

2017年、じゃあ最近はどうかなあとと思ったら、最近の記事です。2020年1月15日、サステナブル・ブランドジャパンっていうのがニュースとしてネット上にありました。

その中でも、この追い込み漁が禁止されたことへの対応の難しさ。じゃあ、だから、今からはもう流れとしては、イルカをショーに使うには難しい。やはりそれは飼育のほうにシフトするべきではないかっていう方向性が出て。

じゃあ、その飼育、先ほど言われましたけど、イルカの繁殖は非常に難しく、流産や死産が多い。1年後生存率はわずか20%程度という。また、水族館のイルカの多くが雌なので、自然繁殖させるには雄がいるほかの水族館に雌を移動させたり、逆に雄を連れてきたりする必要がある。それらのマッチングや、移動・繁殖用プールの整備などにかかるコスト、イルカの身体的負担は少なくない。近年、人工授精の取組も進んでいるが、実施しているのはわずか8園館と狭き門だ。

ということで、「ほかにも技術や費用以前に、遺伝子の問題もある」と。要するに、「日本でやると、今、300頭弱のバンドウイルカが飼育されているが、そうした限られた個体グループ内で繁殖を繰り返すと、近親交配が生じる可能性がある」と。遺伝子の多様性を維持するためにも、こういうことじゃあ、それはちょっと難しいだろうっていうことが既にうたわれております。

当然、指定管理者っていうのはプロですから、こういう情報は頭に入れつつ、あるいは任せている壱岐市としても、こういう流れを見つつ、今後の運営形態を考えられているんじゃないかと思っ質問をしました。

もう一つ、世界っていいですか、御存じのように、イルカの飼育に対してもこの追い込み漁が禁止されたように、要するに世界の情勢がそういうふうになっています。

私、別に日本でもシャチのショーがあるんです。鴨川シーワールドとか。シャチはどうなったかって調べてみました。といいますのは、私が30年ほど前にアメリカに行ったときに、一番最初にサンディエゴ近くのシーワールドで、見に行ったときにシャチとイルカのショーがあったんです。すごいシャチが、人間を頭に寄せたりして、おっきなプールですばらしいショーをやっておりました。イルカもすばらしいショーをやっておりました。やっぱりアメリカのエンターテインメントはすごいなあと思って。日本に帰ってきて、イルカだけのショーを海の中道に見に行ったら、あまりのプールの小ささに愕然としたものです。佐世保の海きららに行ったら、プールがもっとちっちゃい。でも、そういうところでもイルカはちゃんとジャンプして、すごいことをやっている。

しかし、イルカはこうなった。シャチはどうなっているかっていうと、サンディエゴのその有名なシャチのショーは、2017年1月で中止。アメリカ中にシャチのあるショーをしている、そのシーワールド、全館中止の方向です。これは、シャチというもののトレーニング中に、何かトレーナーの死亡事故があったらしいです。

要するに、こういう動物をショーに使う、人間の勝手な娯楽に使うっちゃうことは、世界的に見て、もう時代遅れなんです。というふうに私が言うんじゃないくて、このイルカショーの、先ほどイルカの2017年、京都大学の中にも書いてあります。その基調講演の。「旧態依然としたイルカショーだけでは、国際社会や市民の理解を得るには、既に限界にあると感じ始めている」と。

要するに、「今後はイルカをやるのであれば、大学の研究者にそれぞれの立場を話してもらい、今後、日本の水族館を含むイルカ飼育がどのように世界をリードしていくのかを話し合う予定である」っちゅうのが、博物館で言われた会議です。

現状においても、やはり難しい。先ほど言われましたように、フロリダの大きな、成功率70%か80%かを収めているところとの業務提携に期待するしかないんですが、その期待するには費用がかかるんじゃないんですか。あるいは、そんな遠隔地で、いいや、今、インターネットとかリモートの時代だから大丈夫だと思いますけど、そういうところの現実性はどうですかっというところを再質問させていただきます。

○議長（豊坂 敏文君） 本田企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） 久保田議員の再質問にお答えをいたします。

アメリカのドルフィン・リサーチ・センターでございますが、こちらとしても業務提携をいたしまして、委託料としては現在、そのドルフィン・リサーチ・センターには、昨年、イルカのトレーナーも研修に行っております。

また、ドルフィン・リサーチ・センターとは業務提携をし、そのプログラム等を日本語に訳しまして、それを各施設の研修に来られた方に提携をするようにしておりますので、実際の委託料はかからないようになっております。

また、今後は、先ほど言われましたようにオンラインでの研修をするようにしております、その都度、オンラインで飼育の方法とか医療につきましても受講をさせるようにしております。

あと、業務提携はアメリカだけじゃなくて、国内の大学、東京大学の海洋研究所とか東京農業大学、そして、大阪のイルカを飼っている施設とも連携をし、今後の繁殖等について研究をしていく予定でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 久保田議員。

○議員（7番 久保田恒憲君） 内容はよく分かりました。

ただ、既に飼育をしている施設においても難しいというふうな現実があるわけです。ですから、そういうところも、もう指定管理者に任せっ切りではなくて、やはり壱岐市としても市としての、例えば調査。こういうところがいいんじゃないか、あるいは今、指定管理者の人がやっているルート以外にもっといいところがあるかもしれませんから、そういうところもぜひ調べてもらえませんか。任せっ切りじゃなくて、厳しい現実が待ち構えているのは間違いないわけです。認識的に。

そして、それをやはり、例えばイルカパークのスタッフが何名いらっしゃいますか。それにどれだけ、どういうふうに関わられますか。ちっさい施設ですよね。これ以上おっきな施設が国内でもイルカの飼育、繁殖に苦戦しているのは間違いないわけです。

ですから、そういうところもぜひ調べていただいて、この壱岐でこういう事業が成功するように導いていただけないかと思います。というのは、ちょっと飼育の論文みたいなのがあったんですよ。飼育に関する論文みたいなのが。やはり、プールがたくさんあったり、壱岐みたいな開放型なんですかね。設備が物すごいかかるみたいなんです。その管理も。それを、今のスタッフでできるのか。指定管理者のその役員でできるのか。そういうところもしっかり検証していただかないと、つぎ込んでいるお金はかなりのもんですし、今後もこの施設は残っていくわけですよ。壱岐の目玉とするんだったら、それこそイルカのショーから飼育にシフトをしていくのであれば、そこをしっかりと押さえていただきたいと思います。

今、イルカ通信っていうのが出ていまして、私も興味深く読ませていただいているんですけど。今回のイルカ通信の4号で「イルカパーク再生への道のり」。その中で、途中で「いろいろ経営者としても大変だ」と。その中で、「一生懸命手助けになるようにと思っていたら、あるイルカ飼育施設の経営者と対話する機会がありました。彼は獣医師であり、トレーナー経験があり、現役の経営者。飼育施設における全分野を知っているスーパーマンです。」すごいですね、スーパーマンっていうのは、SF映画では、ほとんどいろんなことを解決して皆さんを救う、そういうイメージがスーパーマンなので。こういう方がいらっしゃるんだったら、当然、こういう方の力を借りながら、運営はされていくと思いますけど。

要するに、メンバーも含めてそういう体制を整えていかないと、私は素人が考えても厳しいと思います。運営形態は。だから、それでどうですかっていう質問をしておりますので、再度、何か別のお答えがありましたら、お願いしたいと思います。

○議長（豊坂 敏文君） 久保田議員、一般質問じゃないですから、一応、要望ということでいいですか。

答弁どうぞ。本田企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） イルカパークの運営につきましては、現在の職員と、そこで不足する部分につきましては専門家等の連携をいたしまして、運営に努めたいと考えております。

また、壱岐市といたしましても重要な観光拠点として考えておりますので、連携し、サポートして、今後、持続できるような経営運営をしたいと考えております。

以上でございます。

○議長（豊坂 敏文君） 以上で、通告による質疑を終わります。ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 質疑がありませんので、以上で報告第9号外7件の質疑を終わります。

以上で、8件の報告を終わります。

日程第9．議案第51号～日程第11．議案第54号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第9、議案第51号から、日程第11、議案第54号まで3件を議題とし、これから一括して質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 質疑がありませんので、以上で議案第51号外2件の質疑を終わります。

日程第12．議案第55号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第12、議案第55号を議題とします。

本件につきましては、議長を除く全議員で構成する特別委員会を設置し、審査を行うようにしておりますので、質疑については委員会でお願ひします。

日程第13．議案第56号～日程第17．議案第60号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第13、議案第56号から、日程第17、議案第60号まで5件を議題とし、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 質疑がありませんので、これで議案第56号外4件の質疑を終わります。

日程第18．認定第1号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第18、認定第1号を議題とします。

本件につきましては、議長及び監査委員、山内豊議員を除く14名で構成する特別委員会を設置し、審査を行うようにしておりますので、質疑については委員会でお願ひをいたします。

日程第19．認定第2号～日程第25．認定第8号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第19、認定第2号から、日程第25、認定第8号まで7件を議題とし、これから質疑を行います。質疑をありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 質疑がありませんので、これで認定第2号外6件の質疑を終わります。

以上で、議案に対する質疑を終わります。

これより委員会付託を行います。

議案第51号から議案第54号まで及び議案第56号から議案第60号まで並びに認定第2号から認定第8号まで15件をタブレットに配信しております議案付託表のとおり、それぞれの所管の委員会に付託します。

お諮りします。議案第55号は議長を除く15名で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託して審査することにしたと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 異議なしと認めます。したがって、議案第55号については、議長を除く15名で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定しました。

お諮りします。ただいま設置されました予算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、議長を除く15名を指名したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 異議なしと認めます。したがって、議長を除く15名を予算特別委員に選任することに決定いたしました。

今定例会における予算特別委員会の正副委員長につきましては、議会運営委員会で協議し、総務文教厚生常任委員の中からとし、委員長に鶴瀬和博議員、副委員長に中原正博議員と決定いたしましたので、報告をいたします。

お諮りします。認定第1号は、議長及び監査委員、山内豊議員を除く14名で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託して審査することにしたと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 異議なしと認めます。したがって、認定第1号につきましては、議長及び監査委員、山内豊議員を除く14名で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定しました。

お諮りします。ただいま設置されました決算特別委員会の委員の選任につきましては、委員会条例第8条第1項の規定により、議長及び監査委員、山内豊議員を除く14名を指名したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） 異議なしと認めます。したがって、議長及び監査委員、山内豊議員を除く14名を決算特別委員に選任することに決定しました。

今定例会における決算特別委員会の正副委員長につきましては、議会運営委員会で協議し、総務文教厚生常任委員の中からとし、委員長に赤木貴尚議員、副委員長に久保田恒憲議員と決定いたしましたので、報告いたします。

日程第26. 要請第1号～日程第27. 要望第1号

○議長（豊坂 敏文君） 日程第26、要請第1号及び日程第27、要望第1号を議題とします。

ただいま上程いたしました要請第1号及び要望第1号については、タブレットに配信の陳情等

文書表のとおり、それぞれの所管の委員会へ付託します。

○議長（豊坂 敏文君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

次の本会議は明日9月15日火曜日、午前10時から開きます。

なお、明日は一般質問となっており、4名の議員が登壇予定となっております。壱岐市ケーブルテレビ、壱岐エフエムにて生中継をいたします。市民の皆様におかれましては、御視聴いただきますようよろしくお願いをいたします。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午前10時27分散会
